

施設理念『キリストの愛を原点に全人的ケアを目指します』



社会福祉法人 救世軍社会事業団 ブース記念老人保健施設グレイス

グレイス新聞

【2024 年度 春号 (2024/ 4/1)】

新年度にあたって ！

施設長 高木 道人

こんにちはグレイスです。みなさんこんにちは！

今年はグレイスができて 29 年目にあたります。そういえば MLB の大谷翔平選手と同じ年ですね。青年から壮年へとちょうど油がのってきた年頃です。
ところでグレイスの意味はご存じですか？

グレイスとは、英語で GRACE と書き、「神の恵み」という意味です。私たちが生を与えられ、今も寿命を与えられているのは、神から与えて頂いた素晴らしい恵みであると思います。

グレイスという名前は、この恵みと喜びを日々覚えて過ごされるようにと願いつけられました。

それから 29 年間、そして今後もグレイスは「世代から世代へ」と受け継がれていくでしょう。

さて、私たちは、今年の目標として次の四つをあげました。

1. 高齢者の尊厳を重視し、提供サービスの質の向上を目指します。
2. 適正な事業運営が継続できるよう人員の確保を目指します。
3. 地域公益活動への取組み、地域に根ざした施設（事業所）を目指します。
4. 施設（事業所）の設備充実、環境改善に取り組みます。

私たちの施設（事業所）は、介護老人保健施設という形をとっていますが、利用される方・職員・その関係者の方々をはじめ、この施設を様々な形で支えてくださるあらゆる方々と恵みを共有していきたいと思っています。

2024 年 救世軍の標語「世代から世代へ」

『人々が、代々に御業をほめたたえ 力強い御業を告げ知らせますように。』

あなたの輝き、栄光と威光 驚くべき御業の数々をわたしは歌います。』

(詩編 145 編 4、5 節)

新しい年度を迎え、職員一同、新たな気持ちで取り組ませて頂きます。今年度の目標は下記の通りです。今年度もよろしくお願いいたします。

2024 年度目標

I. 高齢者の尊厳を重視し、提供サービスの質の向上を目指します。

- ① 職員全員がアドバンスケアプランニング（ACP）の理解を深め、実践につなげます。

II. 適正な事業運営が継続できるよう人員の確保を目指します。

- ① 在宅強化型を目指す、現場での人員と体制を構築します。人員の充足と業務の効率化を図るために業務の見直し、新たな人員配置を構築します。
- ② 職員に対して、キャリアパスを明確にし、客観的な評価と処遇を結びつけていくということが必要。これにより職員の質の向上と離職率の低下につなげます。
- ③ 定期的なミーティング・個人面談実施をします。
- ④ AI や ICT, ロボットの導入を検討します。
- ⑤ ベッド稼働率は 95%以上を目指します。

III. 地域公益活動への取組み、地域に根ざした施設(事業所)を目指します。

- ① 地域のニーズをとらえるために施設として相談場所を設定します。(目標最低年 2 回)
- ② 法人活動(法人主催の研修、社会鍋、街頭給食)へは積極的に参加します。
- ③ 杉並区地域公益活動に協力し、グレイスの PR を行います。グレイス独自でも地域向けの介護教室(施設見学会)を開催します。(目標年 2 回)

IV. 施設(事業所)の設備充実、環境改善に取り組めます。

- ① 経年劣化による備品、機器の耐用年数を把握し、ランニングコストを考え機器の入替を順次検討していきます。
- ② カルテの電子化に伴いペーパーレスに努め、利用者配布物を電子化できないか、検討します。
- ③ SDGs に取り組み、を継続します。(各部署の目標を明確にして取り組みを共有する。)

※3 ヶ月毎に目標の稼働率、業績に達しているかを運営会議で確認します。



第三者評価結果 2023年9月～12月 第三者評価を受審しました。
東京福祉ナビゲーションのホームページに掲載されている概要版を添付しました。

評価結果概要版

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

令和5年度

介護老人保健施設

法人名称	社会福祉法人救世軍社会事業団
事業所名称	ブース記念老人保健施設グレイス
事業所所在地	東京都杉並区和田1丁目40番15号
事業所電話番号	03-3380-1248

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)	高齢者の尊厳を大切にする 生活リハビリテーションを推進する 在宅生活の支援をする、地域に根ざした施設であることを重視する 無料低額事業実施施設として、常に社会的援護を要する人のニーズに目を向ける 専門職としての資質向上のため、人材育成、職員教育に努める

全体の評価講評

特に良いと思う点

- **利用者が食事を楽しめる機会を積極的に設け、満足度を高めています**
例えば、希望がある場合は毎朝主食をパンに変更し、献立によっては主菜も洋食に変更する等、柔軟な対応に努めています。その他、選択食・イベント食・ご当地メニュー・バイキング等、様々な形で利用者が食事を楽しめる機会を積極的に設定しており、味・彩り等、常食以外の方でも楽しめるよう、試行錯誤を重ねています。その結果、利用者調査における食事に関する設問では、「至れり尽くせり」、「食事は最高」等、多くの利用者から高い評価を得ており、取り組みの成果が現れています。特に良い点として、高く評価できます。
- **在宅の様子を職員全体で共有し、利用中の機能訓練に活かしています**
在宅復帰希望の利用者には、利用前後に相談員・ケアマネ・リハ職等で自宅を訪問し、「訪問指導記録」を作成しています。在宅復帰までの期間、利用中の有効なリハビリを計画する為の調査で、住環境・生活環境・調査指導内容を写真付きでまとめています。例えば、玄関や階段の段差の高さ・家具の配置、危険な場所への手すり等の検討、住宅改修の必要性等、在宅に帰るまでの間にどうしたら利用者が安全に、家族に負担なく生活できるかを職員全体で共有・意見交換し、利用中のリハビリに活かしています。特に良い点として、高く評価できます。
- **できる限り自然な形で、利用者に合ったタイミングに排泄できるように支援しています**
「当たり前」の排泄、自然な排泄を目指す」を方針に掲げ、利用者に尿意や便意があった際は、お待たせせずに、最優先で直ぐにトイレに案内するように努めています。排泄誘導は、テープ止め排泄用品の着用者でも、日に一度トイレに座り、排泄を促す事を基本としています。個人差はありますが、この対応で排泄用品からトイレでの排泄に変更になった方もいます。重要な事は、座る事・直ぐに行く事と考えています。方針を決め、最優先で排泄に取り組み、結果としてトイレでの排泄に移行できた事は、好事例と言えます。特に良い点として、高く評価できます。

さらなる改善が望まれる点

- **人材募集・採用のさらなる強化に期待します**
法人内・杉並地域に人材確保専任の職員を配置する等、力を入れて人材確保に取り組んでいます。現時点では、職員数は不足傾向にあり、職員自己評価でもこの点について多々意見があげられています。日本・業界全体の雇用情勢の傾向を踏まえると、これまでの雇用施策(新卒採

用・人材派遣等)では、職員数を充足させる事は難しいと思われます。今後は、例えば、外国籍の介護職員の雇用等の検討も必要だと思われます。今後の取り組みに期待します。

● **地域連携の広がり、ボランティアの復活に期待します**

看護・介護実習の受け入れにも積極的で、医療・介護を目指す人材育成への協力や、それにより利用者也実習生と楽しそうに話し、張り合いのある生活へと繋がっています。一方で、コロナ禍以前は積極的に受け入れていたボランティアの復活には未だ至っておらず、施設としても地域との関わりの検討・外への生活の広がりを今後の課題と捉えています。外からの新たな風が入る事により、利用者の暮らしがより豊かになる事に期待します。

● **利用者の施設内での生活の豊かさや社会生活の維持に繋がる取り組みを期待します**

利用者の施設内での生活をさらに豊かにする事や在宅復帰時の社会生活の維持への支援といった視点を踏まえ、例えば、施設内や近隣での買い物ができるようにする等の取り組みの強化に期待します。利用者一人ひとり身体状況や疾病、多様な事情があると思われますが、在宅復帰強化型を目指す事業所として、改めて検討する事を期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み

★ **サービスの標準化に力を入れています**

マニュアルに沿った適切なサービスの提供の徹底の為に、入職時のOJT等は各フロアに2名配置された教育担当が指導を行っています。指導者は、「指導確認表」で進捗や課題を共有しており、連携した指導ができています。新人指導に関しては、その状況を全体で共有する為、所属長経由で、事務長、施設長にも報告しています。その他、指導状況は、副主任も面談で確認し、必要に応じて教育担当と共に関わりを持つようにしています。新人教育を担当だけに任せず、組織全体で育成する事に力を入れて取り組んでいます。

★ **退所の際に利用者・家族が困らないようなフォローに力を入れています**

退所の際の利用者・家族が困らないようなフォローには定評があります。例えば、在宅復帰の際、急に介護が必要となったケースの場合は復帰後のケアマネ探しからお手伝いします。また、福祉用具や訪問看護等が必要になる事が多い為、退所前に在宅生活を支えるチームを結成し会議を開いたり、実際に自宅訪問して動作の確認を行います。退所日に向け丁寧な準備が進められ、親身になる職員の温かい思いやりが伝わってきます。丁寧な対応は、家族からも「家族の事も含めて親身になって考えてくれる」と大きな信頼を得ています。

★ **在宅復帰に向けて個別機能訓練に力を入れています**

在宅復帰に向けて積極的な取り組みを行っています。例えば、自宅が2階建の場合は階段の昇降訓練、台所仕事をやる場合は横移動訓練、買い物を想定して鞆を持って移動する訓練等、個別の生活環境に合わせ、復帰した際に備えて実際の訓練を実施しています。また、普段は車椅子を使用している場合も、トイレに行く際は職員の付き添いのもとシルバーカーで移動する等、日常の中で意識的に筋力の維持・向上を図る取り組みが行われています。在宅復帰を見据えて、力を入れて取り組んでいます。

更に詳しい結果をご覧になりたい方は、福ナビにアクセスして下さい。

東京福祉ナビゲーション(第三者評価)

<https://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/hyoka/hyokatop.htm>

発行者：社会福祉法人 救世軍社会事業団 ブース記念老人保健施設グレイス

発行人：高木 道人

編集責任：黒木 成人

電話：03-3380-1248 HPアドレス：<https://grace@salvationarmy.or.jp/>